

## 自衛隊神奈川地方協力本部

## JR松田駅「まつだ産業まつり」にて装備品（短SAM）を展示し広報



迷彩服を試着し短SAMの前でポーズをとる子供たち

神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 米田 陸尉）は、11月26日（日）、JR松田駅北口広場で実施された「第20回まつだ産業まつり」において、駒門駐屯地に駐屯する第1高射特科大隊の支援を受け、81式短距離地对空誘導弾（短SAM）を展示するとともに、ブースを設置し広報を行った。当日は晴天に恵まれ、普段目にするこのできない装備品を見学しに多くの来場者で賑わった。また、家族連れは、チビツ子迷彩服を試着して装備品と記念撮影するなど、楽しんでいる様子だった。短SAMや災害派遣のパネル展示、自衛官募集DVDの放映を見た生徒は「とてもカッコイイ」「他の装備品も見たい」と感想を述べていた。小田原地域事務所は、自衛隊に対する関心の高さを確認できた。今後もイベント等に積極的に参加し、地域との交流を通じて防衛基盤の拡充を図り、募集成果に繋げていきたいとしている。

## 神奈川地方協力本部「広報官教育」を実施



意見を出しあう広報官たち

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野 太資）は、12月20日（水）及び21日（木）の2日間、神奈川地方協力本部において、県内12カ所の募集事務所に在籍する全広報官58名（期間業務隊員含む）に対し、「広報官教育」を実施した。本教育は、7月実施された第1回教育に続き、2回目となる。今回は広報官の意識を高めることを狙いとし、厳しい募集環境の中、事務所の枠を越えて神奈川地本全体として募集目標を達成するためには、今後どのような活動を行うのが効果的なかをテーマにグループ討議を行なった。広報官はグループに分かれ、各事務所や広報官個人で行っている募集活動を基に意見交換をし、他の事務所の状況や成果を確認し、共に今後の戦略を考えていた。グループごとの発表では、これまでにない新たな施策案や要望などが挙がり、討議の成果が十分に表れている様子だった。神奈川地本は、今後も定期的に教育を実施することにより、広報官の意識向上を図るとともに、全員で施策、実行し神奈川地本一丸となって募集目標の達成に努めていきたいとしている。

## 神地本広報センターイベント「戦車体験試乗ツアー」

～体感せよ！この振動！！～



74式戦車体験試乗

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野 太資）は、11月23日（祝・木）、広報センターイベントとして「戦車体験試乗ツアー」を実施し、ホームページや神奈川地本1Fにある「広報センター」、防衛省のツイッターなどを通じて応募した149名の中から、抽選で選ばれた中学生から会社員などの20名が参加した。当日は、あいにくの雨模様であったが、マイクロバスで神奈川地本広報センターから東富士演習場へ向かい、第1戦車大隊と駒門駐屯地広報の支援を受け、74式戦車体験試乗及び10式戦車見学が実施された。搭乗者は、ライナー、手袋、OD色の雨衣を身に付け、戦車に乗り込み「しつかり、手すりにつかまって下さいね。結構ゆれますから」と隊員から声をかけられると、目を輝かせ、これから始まる試乗への期待と興奮が最高潮に高まっている様子だった。試乗を終えると「思っていたよりも、早く動いて、ものすごく揺られて、楽しかった」と感想を述べていた。その後、74式戦車の姿勢交換や10式戦車を見学し、74式戦車の運転席などに乗り込んで、隊員から丁寧な説明を受けるなど、戦車の魅力を十分満喫したようであった。生徒は「自衛官になって、戦車乗りになりたい」と熱く語るなど、大きな広報効果をもたらしたようであった。イベント終了後のアンケートでは「貴重な体験が出来た。とても楽しかった」「自衛官の人がとても親切で感激した。大変有意義な一日でした」などの感想が寄せられ、大盛況のうちに本イベントは終了した。神奈川地本は「イベントを定期的に開催することで、広報センターの周知を図るとともに、楽しく自衛隊を学ぶことで、自衛隊に興味を持ってもらい、募集業務、防衛基盤の拡充につなげていきたい」としている。